港区 当知学区

住民交流 健康・福祉 青少年育成 環境・美化

防犯•交通安全

防災

歴史・文化・芸術

その他

災害に強いまちづくり



【当知学区】

■世帯数:3,882世帯

■人 □:9,579人

■面 積:1.297k㎡

平成24年4月1日現在

1 活動・取り組みの内容

- 地震や津波などの災害時の避難場所がすぐわかるように、各家庭に避難場所を 明示したシールを配り、家の中の目につく場所に貼る活動。
- ・ 費用は町内会ごとの負担。
- 避難場所が決まった町内会からシールを各家庭に配布する。

【住民への PR 方法】

チラシの回覧

【アピールポイント】

いざ避難する時にあわてないために!

2 きっかけ、背景

平成 23 年6月に港区が津波避難ビル指定モデル地区に指定され、津波避難ビルとして協力してくれる施設を依頼すると同時に、町内会ごとに避難する場所を 選定する必要と各家庭に避難場所を明示する必要があった。

3 実施の体制

運営メンバー

区政協力委員、町内会・自治会長、民生委員児童委員、保健委員、消防団員、 PTA、女性団体・女性会、子ども会、老人クラブ、スポーツ推進委員 計約30人

4 実施のスケジュール

H23年 6月 津波避難ビル指定モデル地区指定

7月~ 12月 津波避難ビルの指定

H24年 1月 各町内会に避難シールを提案

2月~ 町内ごとに避難場所を選定し、避難所として協 6月 力を依頼

7月 シールの案作成

8月~ シールの配布



5 成果と課題

(1) 成果•効果

住民の防災に対する意識が高まった。

(2) 苦労した点

避難場所の選定、避難施設の協力を得ること、町内会の負担などについて住 民の理解を得ることに苦労した。

(3) 今後の課題・展望

活動の継続が今後の課題。